

「この人 77」

小川 鈍太 62 歳 千葉県

編集部 俳句を始められたきっかけは？

小 川 十年位前に、高校からの友人が会社の同僚と始めた句会に誘われました。俳句自体に魅力を感じていた訳ではなく、その会に優しい絵を描く人が居り、その人物に直感的に会ってみたいと思ったことが大きかったです。結果的に、その人物と出会った事で、今まで続けてこられました。

編集部 滑稽俳句を始められたきっかけは？

小 川 自分では、特別に滑稽俳句を作っているという自覚はありません。ただ、十年間、続けて来て、句会、俳句結社に属してみたりして、何か違うな…と。自分が作っている俳句と、どこか違和感を感じてはいました。

編集部 滑稽俳句の魅力とは？

小 川 詠んでも、読んでも楽しいところです。

編集部 俳句における「滑稽」とは？

小 川 俳句とはこうあらねばならない、という枠にはまらない事だと思います。例えば、花鳥諷詠とか、一行詩とか。

編集部 滑稽俳句を続けていて良かった事は？

小 川 滑稽俳句をつくっているという自覚がないものですから、滑稽俳句というより俳句の席では皆、平等に意見を言い合える事です。歳上も歳下も無いという、そういう雰囲気が好きですね。

編集部 滑稽俳句を作るコツは何かでしょうか。

小 川 自分の目線をしっかり持つ。人の意見を無視する事も大事。依怙地、頑固な性格がいいかも。

【代表句】

干涸びていろはにほへと蚯蚓かな
北風の寒太郎とは飲み仲間
名月や下総に佳き漢あり
縁無きは金に女に花粉症
酒飲もか薬飲もうか春の風邪